

さくらら ふくしま

青山晴江

さくらら ひらひら

川面に舞い落ち

ゆらゆら どこに

流れて行くのでしよう

さくらら ひらひら

水底に影映し

魚はどこまで

泳ぎ逃れて行けるのでしよう

原発から

空に昇ったたくさん

核の粒子が積もりつもあり

それは今日も風に舞い

■ 詩の作者 ■

あおやま・はるえ

1952年東京生まれ。葛飾区在住。1980年、日本文学学校・菅原克己の詩の組会に参加。2年後、詩誌『P』の同人となり現在に至る。2006年1月『父と娘の詩画集—ひとときの風景—』（西田書店）刊行。詩誌『詩区かつしか』『つむぐ』『いのちの籠』に参加。その他の活動として、新宿西口反戦意思表示、たんぼぼ舎・再稼働阻止全国ネットワークボランティアなど。

小さいのちに つきささり
鋭く貫いていきます

さくら ひらひら

水辺に舞い

怒り秘めて ひらと舞い

髪に止まり

乳母車にとまり

また ふわと

消えていきます

やるせない春の

ずっと

ずっと遠くへ

(2013.4.15)

戦争と平和を考える詩の会刊『いのちの籠』第24号より



*『いのちの籠』(年3回発行)は、戦争に反対し、憲法9条を守る詩の雑誌です。
連絡先 〒143-0016 東京都大田区大森北1-23-11 電話 03-3761-8454 甲田方